

令和7年（2025年）10月6日

保護者の皆様

札幌市立手稲西中学校

校長 塚本 慈彦

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

晩秋の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に温かい御理解と御協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、本年4月15日（火）・17日（木）に3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」につきまして、文部科学省から学校にその結果が届き、先頃、保護者の皆様にも生徒を通じて個人票をお渡ししたところです。本校においては、今回の調査結果をもとに、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために分析を進めてまいりました。このほど、その結果がまとまりましたので、その概要についてお知らせいたします。御家庭での指導等に御活用ください。

なお、調査結果の公表については、「序列化や過度な競争が生じないように配慮しつつ、各学校が自校の結果を全国平均と比較し、±3ポイントの幅を基準とした5段階による言葉を用いたり、成果と課題を丁寧に捉え、具体的な改善策を示したりすることとする。」という札幌市の方針を受け、以下のように示しております。

[国語]、[数学]について、それぞれ領域ごとの本校の平均正答率と全国平均との差を用いて比較する。

+3. 1ポイント以上	⇒「△上回っている」
+3. 0ポイントの範囲内で全国平均を上回る	⇒「◇ほぼ同程度であるが、やや上回る」
全国平均と同じ	⇒「－ほぼ同程度」
－3. 0ポイントの範囲内で全国平均を下回る	⇒「◆ほぼ同程度であるが、やや下回る」
－3. 1ポイント以下	⇒「▼下回っている」

「理科」については、本校が「課題」と捉える問題を抽出し、それに対する「改善の方向」を作成する。

また、本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを御理解いただけますようお願いいたします。

【中学校国語】

本校の概要	課題	改善の方向
中学校 国語 【領域】 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ▼全国平均より下回っている。 「話すこと・聞くこと」 △全国平均より上回っている。 「書くこと」 △全国平均より上回っている。 「読むこと」 △全国平均より上回っている。	➤ 事象や行為を表す語彙について理解すること。 ➤ 資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫すること。 ➤ 読み手の立場に立って、語句の用法、記述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 ➤ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。	➤ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする活動の充実。 ➤ 聞き手の話の受け止め方や理解の状況を捉えて表現を工夫したり、資料や機器を用いて考え方がわかりやすく伝わるように工夫したりする活動の充実。 ➤ 文章を読み返す視点を明確にして、身に付けている知識や技能を生かしながら、目的や意図に応じた表現に整える活動の充実。 ➤ 叙述を基に登場人物の性格を捉えたり、語句の意味を理解したりするとともに、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える活動の充実。

【中学校数学】

本校の概要	課題	改善の方向
【領域】 「数と式」 △全国平均より上回っている。 「図形」 ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 「関数」 △全国平均より上回っている。 「データの活用」 ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。	➤ 数量を文字を用いた式で表すこと。 ➤ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明すること。 ➤ 多角形の外角の意味を理解すること。 ➤ ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明すること。 ➤ 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること。 ➤ 1 次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めること。 ➤ 相対度数の意味を理解していること。	➤ 数量の関係や法則を考察する場面で、数量や数量の関係をとらえ、それらを文字を用いた式で表したり処理したりする活動の充実。 ➤ 成り立ちそうな事柄を予想し、それが成り立つかどうかを判断し、成り立つ理由や成り立たない理由を数学的に説明する活動の充実。 ➤ 予想した事柄が成り立つことを証明したり、条件を変えて共通する性質を見出すなど、統一的・発展的に考察したりする活動の充実。 ➤ 事象の中にある関数関係を見出し、表、式、グラフなどを活用して数学的に処理し、その特徴を捉える活動の充実。 ➤ 不確定な事象について考察するとき、度数分布表やヒストグラムなどを用いて、データの特徴や分布の傾向を読み取る活動の充実。

【中学校理科】

課題

改善の方向

中学校 理科

➤【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用し、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できること。

➤元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いていること。

➤生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いていること。

➤大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、大地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できること。



➤ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象に疑問を持たせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習活動の充実。

➤物質を構成する原子や分子の種類や化学反応を元素記号や化学式を用いて表す活動の充実。

➤身近な自然の事物・現象について「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域を横断して多面的、総合的に捉え思考する活動の充実。

➤時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、地層の広がりを推定したりする活動の充実。

【生活習慣や学習環境に関する質問調査結果の概要】

すべての質問について、肯定的な回答を合計し、全国平均と比較した結果について、特徴的なものをお知らせいたします。

（１）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が高いもの

- ・ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・ これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあった。
- ・ 学校の授業時間以外に、普段１日当たり１時間以上勉強している。
- ・ わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している。
- ・ 数学の授業の内容はよくわかる。
- ・ 理科の勉強が好きだ。
- ・ 理科の授業で得た知識を普段の生活の中で活用できている。
- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだ。
- ・ 自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理することができる。

（２）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が同程度のもの

- ・ 朝食を毎日食べている。
- ・ 毎日、同じくらいの時間に起きている。
- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
- ・ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・ 友だち関係に満足している。
- ・ 読書は好きである。
- ・ 国語の勉強は得意である。

（３）全国平均と比較して、肯定的な回答の割合が低いもの

- ・ 自分によいところがあると思う。
- ・ 人が困っているときは進んで助けている。
- ・ 学校に行くのは楽しいと思う。
- ・ 学校の授業時間以外に、普段１日１時間以上 PC・タブレットなどの ICT 機器を勉強のために使っている。
- ・ 毎日同じくらいの時間に寝ている。
- ・ 国語の勉強が好きだ。
- ・ 理科の勉強は得意だ。
- ・ １，２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んでことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。

質問調査の結果を見ると、起床・就寝や食生活などの「生活習慣」、『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う』という「規範意識」については、全国平均と大きな差がないことがわかります。

教科の学習については、今回調査した、国語、数学、理科ともに、意欲的に取り組んでいる様子がわかり、教科の学習を普段の生活の中で活用できている実感もあるようです。学習意欲をさらに高めていけるよう、引き続き本校の「学ぶ力」育成プログラムに基づく取組を全教職員で共有し進めていきます。また、道徳や総合的な学習の時間も含めて、子どもたちが興味関心をもって意欲的に学習に取り組み、将来の夢や希望の実現に向けて必要な資質や能力を育成できるよう、教科研修を深めていきたいと思います。

一方、「自分によいところがあると思う」や「人が困っているときには進んで助ける」については、全国平均と比べて肯定的な回答の割合が低くなっています。これは、「人の役に立つ人間になりたい」という向上意欲はあるものの、自分に自信を持てないために、行動に移すことをためらっている部分があるのではないかと推察します。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という気持ちを大切に考え、教育相談の他にも普段の生活の中で、気軽に相談できる機会を見つけ、生徒の思いに耳を傾け、困り感を解消し、自己肯定感を高め、誰もが安心して楽しく過ごせる学校づくりを目指します。

ここに挙げたものは、あくまで生徒がもつ一面にすぎません。学校では、生徒の良さ、可能性をさらに伸ばし、課題の克服に向けて、教育課程の充実と授業の工夫改善に努めていきます。